

### 第3回 美里町総合計画審議会 総務行政部会 会議録

年 月 日	令和7年9月24日（水）
場 所	本庁舎3階会議室
審議開始時間	午前・ <b>午後</b> 2時00分
出席委員	佐々木秀之委員（部会長）、志田文昭委員、赤間公太郎委員 伊藤啓一委員、武田莉愛委員、西條瑞希委員、片倉利子委員
欠席委員	石垣直樹委員
出席職員	高橋憲彦まちづくり推進課長（幹事）、佐野仁総務課長、 小林誠樹企画財政課長、門間裕匡税務課長、中川由華会計課長、 佐々木達也産業振興課課長補佐、櫻井紳司防災管財課課長補佐、 高橋勲企画財政課係長
審議終了時間	午前・ <b>午後</b> 3時09分

#### 審議開始

—午前・**午後** 2時00分 開始—

#### 協議

高橋課長 ただいまから第3回美里町総合計画審議会総務行政部会を開会させていただきます。総務行政部会佐々木部会長からごあいさつをいただきます。

佐々木部会長 お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、第3回目ということで先に部会をやり、これまでの議論を確認しその後全体会という流れになります。全体会では私の方から部会の報告をさせていただきます。これまでの議論でも部会ではどちらかというと外からの視点でHP、移住定住、施設の使い方等、きめ細かく議論してきたと思います。今日は、その確認とさらに追加すべきことがありましたら忌憚ない議論をしていけたらと思っております。短時間になりますが、よろしく願います。

高橋課長 議事進行を部会長をお願いしたいと思います。

佐々木部会長 それでは、議事に移らせていただきます。まず、第2次美里町総合計画・美里町総合戦略第3期計画（案）についてご説明いただきます。

高橋課長 今回、事前にお送りしております、第3期計画（案）について説明いたします。総務行政部分が主なものとなりますが、今回お送りした資料によりますと、基本計画の部分となります。19ページから22ページのところが大きく変わっているところになります。基本計画として第3期計画のスローガンなど、佐々木部会長のご提案を踏まえた形で新たに追加されているという状況になります。さらに政策ごとに今回変更させていただいた部分について、見え消しで計画書の方に表示されている状況となっております。今回新たにミサトミライ指標ということで、これまで指標として施策ごとに箱囲みで表示されている部分に変更となっております。例示させていただきますと、26ページの1-4施策の指標、こちらがミサト

ミライ指標となっておりまして、施策の主な取組ごとに、これまでは指標類型として「大好きを続ける」「大好きを育てる」「心わきたつ未来を創る」と3つに分けてあり、該当するものを箱囲みしていましたが、こちらが指標類型として「大好きを育てる」目標と表示が変わっております。さらに、指標の考え方も若干表現が変わっており、目標値についても再度見直しがかけられている項目があります。簡単ではございますが、今回の資料の訂正部分につきまして、同じような内容が施策ごとに表現されているという状況でございます。以上です。

佐々木部会長 ありがとうございます。皆さんに配られている2枚物の資料は全体計画に関するのですが、部会長・全体会長として少しわかりやすいイメージが必要だということで、役場が中心となり「新しい大好きを。心、わきたつ美の里へ」という素晴らしいスローガンをたてていただき、それが全体会で美里町全体のスローガンと認めていただき、部会の議論を踏まえミサトミライ指標をいれていただき必ずしもKPIや数字で測れない部分、心わきたつ未来目標というもの、そういうものも今回いれていただきましたので、これは全体の話ではありますけれど、この部会でも入り口を整えていただいたというご報告になりました。それでは、(2)各部会審議結果の振り返りについて皆さんの議論を踏まえ、どのように改善しているか事務局の方からご説明いただきます。

高橋課長 それでは、説明をさせていただきます。まず資料の25ページからになります。(施策1移住・定住を促進するための対策)1-3の①こちらは住環境の創出に向けという表現をしていたところを「民間のアイデアやノウハウを取り入れた生活利便性に優れた住環境の整備を推進します。また、子育て支援と連動した仕組みを構築することで、若者や女性が安心して暮らすことができる移住定住を促進する環境づくりを行います。」を追記しました。こちらにつきましては、西條委員から「新たな住環境の創出とあるが、駅東地区の拡張や、町内の交通環境や生活環境が整っている場所に、中規模、小規模の宅地整備を促進してはどうか」という意見や、「若い世代、これから結婚や子育てを行う世代など、ファミリー向けの移住・定住の重点支援が有効ではないか」という意見をいただいた部分を反映させ修正しました。次に1-3の②空き家バンクの部分になりますが「空き家バンク制度の情報発信を強化し、これまでの空き家空き地に加え、空き店舗の登録を推進します。また、民間事業者との連携を図り、空き家等の利用希望者が活用しやすい制度とすることで、空き家と利用希望者のマッチングを推進します。」を追記しました。こちら、西條委員の方から「20代から30代で小牛田駅前の空き店舗を活用したいとの声をたびたび聞く。起業希望者が空き家空き店舗を活用しチャレンジできる仕組みづくりができないか。」という意見をいただき、また石垣委員から「空き店舗の活用の話があったが、選ばれる町となるためには、空き店舗を活用した場合のインセンティブが有効では。また、空き家の情報収集も重要であり、他市町村では空き家相談会や固定資産税の納付書とともにチラシの配布を行っている。そのような掘り起こし作業が重要では。」という意見をいただきましたので修正させていただきました。続きまして26ページ1-3③お試し移住体験の部分でも西條委員から「お試し移住体験の中で、地域の催事や事業者と触れ合う機会を設ける、地域産業と連携した体験プログラムを取り入れてみてはどうか。」という意見をいただき、「また、お試し移住体験事業において、住民活動や地域産業と連携した取り組みを行うことで」を追記しました。続きまして、31ページ(施策4地域運営組織・住民活動を活性化させるための対策)4-3の①地域で行われているコミュニティ活動の部分「幅広い世代が活動に参加しやすい仕組みづくりをサポートすることで、新たな担い手の確保や地域コミュニティの活性化につなげます。」また、②「コミュニティ施設等の利用環境の改善に努め」という部分を追記しました。こちらは西條委員からのご指摘で「今の暮らしにあった住民活動

にシフトしていく必要があるのでは。若い人が気軽に関わられる仕組みをつくるのが重要。活動の負担を減らすサポート体制があると良いのでは。」また、「現在は、公共施設を営利目的で使用することに制限があるが、住民が活発に活動できるよう、公共施設の使用のハードルを下げしてほしい。」という意見がありました。さらに片倉委員から「住民活動の中で、若い人が入ってきて数年でやめてしまうケースが多い。子育てや介護が理由であるが、そういった忙しい世代と、時間や生活にゆとりがある世代をつなぎ、お互いが支え合う仕組みがあるといいのでは。」という意見がありましたので、そういった部分を踏まえ追記しました。それから、西條委員から「町の魅力創出として町有地や施設を活用しては。子供の室内遊び場、高齢者の活動の場、マルシェが行える場などが一体となった複合施設があるといい」という意見もいただきました。こちらにつきましては、今回ミサトミライ指標ということで、基本計画の中に心わきたつ未来目標ということで「3つの学び舎を未来の原動力へ」という目標を設定し、今後具体的に取り組む形になるかと思えます。次に102ページ（施策33行政運営の効率化とDXの推進）こちらにつきましては、武田委員、赤間委員、伊藤委員、志田委員、それぞれ皆さんから今後、SNSの情報発信は重要だという意見をいただきました。33-3の⑤に「行政情報の発信の窓口である町ホームページを更に充実させるとともに」「“知りたい”をかなえ、知るたびに美里を好きになってもらえるよう」を追記しました。また、庁内研修という言葉ではなく職員による勉強会というものでDXの基礎的な知識を学び仕事に反映させる仕組みができるよう修正しました。以上、各委員の意見を反映させた一部の紹介を終わります。

佐々木部会長 ありがとうございます。我々が関わる場所としては第1章施策1心、わきたつまちづくりの推進第6章政策10持続可能な行財政運営 施策33行政運営の効率化とDXの推進、ここまでがこの部会の議論となりまして、他はその他の部会での議論となります。皆さんの意見や思いというものが十分に反映され、そして今回は指標がありますので敢えて、全て数字で換算するのではなく、未来目標とするものを盛り込むことができたのではないかなと思います。それでは、最後の部会となりましたが、皆様には確認をしながら忌憚ない意見をいただければと思います。

武田委員 そうですね、これまでのそれぞれの意見がすごく反映されている内容になっているなと感じました。それから、私も町内で3年間過ごしてきた中で、これから子供が生まれて暮らしの視点が変わってくるなと思った中で、西條委員が前回提案した、子育て世帯が住みやすい住環境を整えるであったり、それ以外にも、私も地域の中で活動していく中で、これから起業したいという人だったり、あとは協力隊以外にも地域でなにかチャレンジしたいがそれを叶えられる場所がないという声を聞いていたので、先ほどの空き家を活用したチャレンジできる場所づくりというのは良い目標になるのではないかと思います。また、先ほど説明があったように地域で行われているコミュニティ活動を支援するということも、すごく良いなと思っていて、昨日まで私も協力隊時代からやっているPRのイベントに参加させていただきましたが、そういった方も町民一人一人が思いをもって、バラがすごく好きで、誰かに言われたわけではないけど思いを持ってやっている人同士が20人、30人集まって自主的にやっているイベントというのが、美里にはバラ以外でもあるのではないかなと思っていたので、そういったところに焦点を当ててPRだとか、そういう方を応援する仕組みをこれからも続けていってほしいなと思いながら聞いていました。以上です。

佐々木部会長 はい、ありがとうございます。人生のステージが変わると見方も変わってきますよね。武田委員も美里でチャレンジさせてもらいましたので、起業やコミュニティ活動をやりたい方の支援をしてあげるとするのは、ひとつのメッセージですね。新しい建物を建てるとなると時間はかかりますが、空き家等を使ってす

ぐその場を用意してあげるというのはとても良いなと言っていましたね。西條委員お願いします。

西條委員 前回の第2回審議会で提案させていただいた各施策の具体案に関して、新たに文言を加えていただきありがとうございます。また、今回各部会においても多くのコメントがあったと思いますが、計画の策定も重要ですが、ひとつひとつの施策を着実に実行に移すことが大切と考えます。まちづくりは、そこに暮らす住民全体・町全体のための取り組みだと思いますので、行政だけが担うのではなく住民が主体的に関われる環境の整備を行い、住民の意識やモチベーションを高めながら共に進めていけるといいと思います。

佐々木部会長 いつも取りまとめていただき、その通りだなと思ひ反映させていただいていると思います。私も市民参加型のまちづくりという本を出していますが、やはり「参加」ですね。そこから少しでも関わっていく。外からの関わりだけではなく、町の中でも関係人口を増やしていく。そういう意味では全員参加型というかたちで、これまでは一部の人だけでしたが、移住されてきた方・これから生まれてくる子供たち・小学生みんなに関われるような仕組み、そしてそれを実行に移していくことが重要ですね。片倉さんお願いします。

片倉委員 私たちのいろんな意見をこのような素晴らしい内容にまとめていただきありがとうございます。微力ながらも私も皆さんがわくわくするような、そんな生活がしていけるように地域活動等に参加し、地域の方のお役に立てるといいなと思いました。

佐々木部会長 今回片倉さんが、小牛田と南郷で合併して南郷側を熱く語っていただけたのが印象的で、過疎地域の指定にもなってしまった一方、日本全体で50%くらいの自治体が過疎地域に指定されているので悲観することは決してないのですが、そこをこれからどうやっていくか、まさに住民だけではなくそこに関わる人、全員参加型で南郷の方もこれからやっていくような話にもなっていましたので、今日は時間がありますので言いたいことがあれば言っていただければと思います。一方で、意見はきちんと反映されているところもありますので、引き続き南郷情報をよろしくお願いします。赤間委員お願いします。

赤間委員 皆さんそれぞれの得意ジャンルというか、得意分野で色々なご意見がでて、この資料もだいぶ良くなっていると思いますが、結局のところDX的な立ち位置の視点から言うと、情報は知ってもらってなんぼのところにつきます。どれだけ素晴らしい施策を作り、企画や活動をPRしても相手に届かなければ全く意味がないもので、やはりWEBサイトなりSNSなりの情報発信の強化というのは、本部会や全体会に限らず必須事項といえますので並行して改善を図っていただければいいのではないかと考えております。DX的な話を更にする、今回皆さんの手元にある資料は、それぞれのメモで、それぞれの頭の中で、それぞれ展開している状況です。まあこんな時代なので、例えばGoogleのノートブックとかツールを使うと、この資料がオンライン化になり、AIで内側(身内)の資料を取り出したりとかまとめさせたりできるので、オンライン化させたらいいのにと思いました。そのあたりもすぐにできる施策なので是非ご検討いただければと思います。

佐々木部会長 はい、今回特にホームページの話を出してもらい、美里町の中でも元々動きがある中で議論を踏まえて、むしろ今回動くような流れになっておりましたので、先ほど実行というお話がありましたけど、美里はあつる意味動きが早いので、そういう意味ではこの部分につきましては、ある程度動くところなのかと思ひま

す。やはり、美里町は私も関わって、各地域の事例集も作ったことがあります。それこそ武田さんが学生時代に全地域まわって協働のまちづくりの事例集を作りました。地域回って、地域のラーメン屋さんに行って、ご飯食べて、話を聞いていたんですけど、いいところがたくさんあるんですよね。食べ物もいいし、活動も活発的だし、地域の皆さんも本当にやさしいし、ただ、そういうものを伝えるのって一番難しいですよ、なのでそういう努力を続けていって、いかに知ってもらうか。表面的な部分だけではなく質の部分、優しさや情熱といったところですね。地域の厳しさや楽しさ。そういったところをどう伝えていくかというところはちょっとDXでは難しいところだと思うので、そういう質的なところを是非赤間委員のような方と議論しながら美里町らしいDXを取り入れていくというのが大事だと思います。何でもかんでもDXにして効率化を図っても結局量も減らないというのが今の社会でいわれていますので、そこがポイントだと思います。あと、DXという言葉を作った人が、いかに人々が幸せになれるかというところがポイントだと言っています。そういった美里町が、働いている人も含め、いかに幸せになるかということがDXの本質ですので、その辺を最後文言の確認をしていただければと思います。伊藤委員お願いします。

伊藤委員

せっかく皆さん集まっているので議論したい案件を持ってきたのですが、まずこちらの中身を拝見させていただいて、基本的には全て反映されていて、ありがとうございます。仙台市で同じような活性化委員をやらせていただいて、そこでも同じような話をしたのですが、私が申し上げたいのは、政策3の私たちの委員ではないかもしれませんが、委員に関係してくる、企業関係に関係してくる話として、施策11の子育ての部分です。これについて否定するつもりは全くございません。ただ、これだけでは足りないかなということをお話ししたいと思います。ネタとしてお持ちしたのですが、クローズアップ現代で2024年6月17日放送されていますが、地方から女性が消えていくというお話でございます。全国で消滅市町村が744という可能性があります。若者調査の流出超過で男性より女性の方が多いものが全都道府県の中の33都道府県でございます。33都道府県で男性より女性の方が多く出ています。そのうち鹿児島・富山は2.1倍、栃木は2.4倍となっています。そういった女性が早く出てしまう地域の方が過疎が進んでいくというような現象があります。これは、女性に対して子育てつまり人口を増やせだとか子供を産んでいただくこれは大事なことで否定はしません。ただし、そうではない女性の方も私は多いと思っていますし、そういった価値観にすべきだと思っています。もう一つは、ダイバーシティのような働き方ですね。女性を含めた高齢者の方・外国人の方そういった方も大事だなと思っています。このクローズアップ現代で出てきているもので、何故女性は地方から東京の方に出ていくのか。というアンケートで一番は、やりたい仕事・やりがいのある仕事が地方では見つからない56.3%。あとは、給与が低い55.3%。出てくる女性の本音としては、いわゆる子育て支援だけではなく、様々な女性の支援のようなものを企業とやっていってはどうかと書いてあります。特に、ここに出てくるのが100兆円。子育てであるとか女性の子育て支援や結婚支援に100億円以上国として使われていますが、ここでもう一つ出てきたのが富山県入善市では女性の出る割合が2倍に増加しましたが、子育て世代の支援を手厚くして出生率を維持することが不可欠として独自の予算をつけ、様々な予算やライフステージでやっていったが全然引き留めにならなかった。と実は話にでてきていて、どちらかという、子育て支援はもちろん大事です。それプラス様々な女性であるとかダイバーシティのような働きやすさ、環境を企業に求めることが必要ではないかと思っています。もう一つNHKの番組ででていますが2025年7月2日に宮崎県で女性の流出を食い止めなければいけないと出ていました。これは何かというと若者回復率というのが指標であるそうなのですが、10代で転出した人

の数と20代で転入した人の数を割っている。20代で転入が分子、10代で転出が分母。男性が34.5%つまり10代で流出した人が993人で343人が入ってきたとなっています。女性はマイナス7.7%。10代で出た人が1,066人もいて20代で入ってきた人がマイナス80人。つまり20代になっても30代になっても転出した人が多くいたという事実でございます。若者回復率というのをどこの誰が言ったかという、兵庫県富岡市が人口ビジョンとか独自で定義した指標でございます。こちらの富岡市についても男性52.2%に対して女性26.7%。私がこれから申し上げたいことは、じゃあ、どうする?ということ。宮崎市では企業に助けを求めた。女性の働きやすい環境、働いていく中で女性が輝ける環境をつくり、宮崎市の中では建設業で3割くらい女性をいれているところが出てきました。宮崎市では若者回復率を提示し危機感を共有するところから始めたそうです。危機感を共有して企業の皆さんも、地域から女性が出ていく、人口が減っていくとなれば大問題ということで、自分たちでも何かやろうということでやり始めたそうです。私は企業会に半年前入らせていただいて企業会でも定義していかないといけないのかなと思っていました。私たちの会社で話をさせていただくと、今日現在で62人、うち女性が31人。丁度50%でございました。私どもはなにをやっているかということ、子育てはもちろんやっております。結構面白くて、みずき保育園があるのですが、みずき保育園も人口が減って大変だと、じゃあ提携しましょう。ということで、普通に入るよりもうちの職員のお子さんが優先的に入れる。そうするとみずき保育園も子供が入り喜ぶます。うちの職員も少し安く入らせてもらえるので子育てのためのコスト削減になる。そのようなwin-winな関係になれる。こういった取り組みが企業間でもっとできないのか。ということを思っています。もう一つ大事なのは、こちらの全体表の中でワークライフバランスがございしますが、これも仙台市で議論になりました、一つ言葉を追加する「ワークライフインテグレーション」というのが、今の主流だそうです。これは東北工業大学の佐藤飛鳥先生が提唱したのではないかとされています。つまり、ワークライフバランスというと仕事と家庭は別だよねということ、インテグレーションは双方向でかぶるよね。つまり家で仕事をするのを促進する、子育てしながら同時に隣でパソコンを打つこともインテグレーションですね。ワークライフバランスの働き方ではもう古いのではないかとということで、この言葉を入れることになりましたが、働き方の多様性であるとか、様々な人材を入れるという。子育ては基本的に大事です。その上位互換として多様性のあるような若い子育てをしない女性だとか、外国人人材だとかそういった方たちが入ってきやすい企業をつくるということは大事なのではないかなと思ひましてご紹介させていただきました。以上でございます。

佐々木部会長 はい、ぜひ議論をとしたいと思います。若者回復率というものは重要ですよ。私も大学にいますけど、宮城県ってそもそも流出してしましますが、ただそんな中で戻りたくなってくるというものもあるんですよ。学生も東京に行きたいというのに行くとも言えませんし、ただ、一回行って見て戻ってきたいとか、そういうものも回復率に入ってくるんだと聞いておりました。特に、女性、ワークライフインテグレーションですか、そういう女性の方からワークライフのやり方なんてあるんじゃないかと提言、仙台市でも出るようなので、武田委員から今の伊藤委員の話を聞いてなにか思うことがありましたらお聞かせください。多様性の時代というものから、例えばデジタルが進んできてプルラリティ（多元性）も注目されていますよね、なにかジェンダーで分けるではなく考え方が大事なんだということですね。トレンドなんかも出てきています。そういう意味では女性がという議論に抵抗がある方もいらっしゃると思いますけれど、現代の段階で女性の進出といわれていますので、本音で結構ですのでなにかお話しいただければと思います。

武田委員 私も大学4年で進路に迷っているときに、なにもやりたいことがなかったというか逆にやりたいことが、まちづくり関係の勉強をしてきたのでSNS発信の仕事がないかなと。仕事内容は決まっていたけれどどこにあるのかをひたすら探していたという感じだったので、その時に佐々木先生に紹介してもらい、美里町の地域おこし協力隊で地方のPRをしながらインスタ発信もできるということがマッチしていたから着任したというのが、協力隊になった一番の理由でもあるので、やりがいのある仕事があるっていうのは女性にとっても魅力的な要素にはなってくるのではないかなと思います。あと、今は個人事業主としてやっていますが、その中でどう子育てと両立していくのかイメージがつかない状態で、先ほどいっていた在宅ワークしながら子育ても一緒にできたりだとか、そんな多様な働き方、その人に合わせた働き方ができて、子育てしているからやりたいことを諦めるのではなく、やりたいことも同時にできるとなると人生の充実度的なところも上がってくるのではないかなと思うので、その地域にとどまったり、その地域に引っ越してきたりする要素の一つに間違いなくやりがいのある魅力的な仕事が含まれてくると思うので、そういうのが美里町にあったとしたら年代問わず引っ越してきたり興味を持って調べてくれる人が増えると思うので、場所や環境がもっと整えば若い人もそうではない人も訪れたり調べたり美里をもっと知りたいと思う方が増えるのではないかと聞いていて思いました。

伊藤委員 今度、東大出身の人でワークライフインテグレーションを前提に美里へ来てもいいって男性がいるんです。一流企業に勤めていたが、このまま働いていても自分は成長できない、やりたいことが制限されてしまうと。そういった意味で男性もワークライフインテグレーションで好きなことをやりながら。あとは、青年自然の家にいながら仕事していいですかと若い人が、それもOK出しました。男性女性がではなく、子供が熱出たときどっちがインテグレーションできるかとか、そういう企業が美里で増えていったらいいのかなって思っています。

武田委員 そうですね、私もそれを聞いて魅力に感じるのでそういった方が同世代でも多いのではないかなと思います。

佐々木部会長 そういう要素も少し入れていけるといいですね。この政策にも結構重要なポイントだと思います。やはり学生たちも学生の頃は成長を実感できるんです。大学1年から4年まで全く違いますもちろん小学6年の方が成長の度合いって見やすいですが、やはり1年1年で成長を実感できる。企業に入っていくと成長の実感がしにくい、人脈が増えたり、仕事ができるようになったり発展することは実感できるのですが、いかに成長できるかが今の若者の疑問に感じるところでもあると思うんです。なので、新しい時代に入っていきますので、今の話で美里で実現できるとなればおもしろいですね。そこに企業の協力というのは絶対的なので、これからの協働のまちづくりというのも、これまでのまちづくりというのも行政が中心となっていました。企業なども入れて新しいことにも取り組んでいく。地域の人にも新しいものにきちんと納得ができれば関わってくれますので、むやみに新しいのをいれるというよりは住民の皆さんにも理解してもらいながら一緒に新しいことに取り組んでいける、作っていくというお話しなのかなと思いました。

西條委員 今年33歳になりますが、女性の人生の多様化しているという点について、全くその通りだと思っています。今は育休中ですが普段は一般企業で働いておまして、勤めている企業は比較的福利厚生が充実している方だと思っています。個人の裁量に任せていただいている部分もありますのでテレワーク等も活用していますが、まだ50、60代の方も働いておまして、その方たちはやはり自分たちが苦勞してきたので新たな価値観に抵抗があるという方が非常に多いです。せっきくの福利厚生が活用できていない女性社員

も実は多くいらっしゃって、その世代の人たちが今の世代の働き方というのを納得できるような形がとれたらいいのかなと思っています。そのためには、企業内での説明会とかが必要なのかなと思っています。

佐々木部会長 そうですね、世代によって段々と年を取ると新しいものを受け入れにくくなるのかなと、私も50代になりまして、感じる時があるんですが。あとはやはり世代間の協働というのもありますのでそういうところもきちんと理解し合いながらやっていくと、そこを補い合うということもできますので、世代によって得意なもの苦手なものってありますので補い合う、あるいはDXも補い合うというツールになりますので、働くところが美里ではなくても美里に住んでもらうにはという視点も大事だなと思いました。

片倉委員 子育て世代は終わってしまった世代ですが、子育て世代の若い世代に戻るとすれば、朝会社に行き夕方帰って家の仕事をしてというのは、もう嫌だなという感じで、やはり在宅ワークだとかこういう田舎であれば自分で起業するというのはすごくやりがいがあるいいだろうなと、私も40代後半で起業し自宅でネイルサロンをしています、丁度介護の時期と重なりこの仕事を選んでよかったなと、家にいながら仕事をし、祖父祖母を見守りながら、ということもできるのですごいいいなと。若い人たちもちょっと難しいから無理かもしれないとかあまり難しく考えず、自分で起業してみるとか何か考えてやってみるとかチャレンジしてみることはいいことではないかなと思います。こんな田舎なのに、わざわざ県外から来てくれる人もいてSNSってすごいなと思っています。以上です。

佐々木部会長 伊藤委員から素晴らしい話題を提供していただき深い議論ができていますと思いますが、私も色々考えるところがありましたけれど、伊藤委員いかがでしょう。

伊藤委員 多様性はすごいスピード感が出ているのかなと思っています、それに対して柔軟になっていく形がすごく大事ななと。あともう一つありまして、眠れる資源というものがあまして、たくさん眠れる資源があると思うんですよ。今県外からくるとお話しありましたけれど、その資源を活用しないといけないよなと。そのような素晴らしい企業さんと連携してなにかやってみるとか、近くに映えるものがあれば。

赤間委員 SNSでリツイートするとか、紹介し合うとか、SNSって自分で発信するのも大事ですが、基本的に誰かが盛り上げてなんぼなんです。お互いのアカウントで会話をするなど。

伊藤委員 今聞いただけでも施策が出てくるという感じでございますが。美里町のいいところもう一つあるなと思っていて、企業会がすごく盛んだなと思っていて、みなさんの集まり、木村会長が引っ張って毎回すごいなと。ああいった会議でも情報共有とかしたら、横展開できたり、あとは会社の人間で分からない方がいらっしゃるといっていましたが、勉強会みたいなものを集めて企業会でやってみるとか、仙台でいうとユーメディアさんとか。そういうものをやっていったらいいのかなと思いました。

佐々木部会長 女性だけではなく男性も人生百年時代になってきますので、その辺の豊かさというものもこれから盛り込んでいく形ですよ。60まで働いても残り40年、120だったら60が中間折り返し地点で120年時代というのがこれからくるかもしれないので、そういったときに都市的な60まで働いてあとは年金で何とかということではなく、そこでも生きがいをもしかしたら美里町のようなところの方が都市より実現できるかもしれませんので、ワークライフバランスだけではなくライフバランスというのも重要

になると思いますし、眠れる資源の話を、私も宮城大学で地域資源論という授業を担当していますが、未利用資源という枠になって、もちろん短期的にコミュニティビジネスで使われていないもの、資源を換金して売るといふ。美里でも盛んに行われていますけれど、そういうものではない、来た人であるとか、人のつながりであるとか、そういうものが資源になるという考え方がポイントになってくると思います。予算が無尽蔵にある時代ではないので、高度経済成長期は見通せませんので、これからいかに未利用資源を使っていくか最大のポイントになってくると思います。それでは志田委員お願いします。

志田委員　まずですね、お伝えしたいのが、皆様大変お疲れ様でした、と。これだけのものを毎回我々の意見だとかを踏まえながらさらブラッシュアップしてプラスアルファ言葉もスツとくるような形になっているので、そこに対するご尽力について感謝申し上げます。細かいところですが、今回の修正の部分で一点確認させていただきたいのが、26ページ目③の表現が「関係人口」という使い方で、訂正する前の文章ですと、「美里町の魅力としてPRすることで、関係人口の拡大」という文章になっていましたが、修正後になると主語が変わってしまうので、何故この話をするかということ、関係人口という言葉自体が最近クローズアップというか、定義として私の頭の中にあるのは、関係人口とはここに住んでいる人ではなく外の人たちが遠隔地からこの美里町のGDPを上げるというイメージで、なぜここにこだわっているかということ、町づくりの根本のところ2つ、1つは人を増やす、あとは、人を増やすまでも関係人口を増やすことで持続性を高める。その2つのアプローチがあるので、そこら辺の定義は明確にして、では関係人口を増やすには何をやるのか、そういった施策の組み立てになるのではないかとということ③の表現が、先ほど委員長が言ったような、まあ、広義で関係人口も美里町の人も含めるというのであればそれはそれで構いませんが、テーマとして町の持続性を高めるために関係人口というこの言葉自体が結構大きな意味を持つので、その部分は定義をしっかりとした方がいいだろうということですので。ここからは私の雑感というか、私の問題意識というか、冒頭の方でも話がありましたが、ここからはこの施策をどういう風にやっていくかということが一番重要なだろうと、我々七十七銀行もこういった長期計画を立てる中で、10年計画を立てて5年目ですが、前にも話したかもしれませんが、この施策自体が有効かどうかはやってみないと分からなく、全部やることよりも最初に何を優先的にやるのかということ、それをいつまでやるのか、やった結果として2～3か月で捨ててもいい施策もあると思いますが、その軸をやはりどこにもっていくのかというのが重要なのかなと、私も経済の分析などしているので、やはり美里町がではなく日本全体が人口が減る国を前提の中で、もう待たないしというか、そういう状態に、私はそれは別に美里町がではなく仙台市、東北はどちらかということ全国的に見てもDNAの中にビジネスのDNAが備わっていないので変化をしない地域として、生き残るのは難しい様な思い込みが、ただそれを指をくわえて待つよりもこういった施策を立てながらやっていくことは有効だろうと、そういう風に思っております。重要なのは、私が申し上げたいのは、ここで決めたものを全部100%やれば持続性が高まるものではないと思っていて、ただ、その中でしっかりやりながら、変化をしながら、それを的確にPDCAを回し、こうだったねと繰り返す中に町の未来の姿が見えてくるような、そういったことが美里町を一企業体としたときに、そういった取り組みが必要だろうと、これも第一回の時申し上げたと思いますが、やっぱりそういうふうになんかやるかではなくそれをどう進めるかということの特殊部隊ではありませんが、町の中でも10年、20年間若い人も含め、こういうような取り組みをモニタリングするような仕組みで、たまにこういう風に色々な専門家がいるので、トレンドとしてこういう言葉、こういう角度のことが入っているよというような定期的にモニタリングをする仕組みがあると、何故こういう話をするかということ、私もこの地に来てから30年50年先に何をやるかと考える中で、外部の方でしたが、志田さんと1年2年で50年先のこ

となど出来ない、だとしたら今それを達成するための体制、仕組みをどう組むのか。ここの何十とある施策を一つ一つ細かくやるというのも優先順位をつけたり、途中でモニタリング、議論をするようなそういった仕組みを、今後検討される方がここからは有効なのかなと。せっかくここまで完成度の高い素晴らしい計画ができたので、ここからはこれをやる中で、是非、次の5年後に見直す時にこれはここまでできたなど、そういった振り返りを踏まえながら次の計画に、ここもっと伸ばそうよとか、そういうような方向に持っていけるといいだろうなと思いました。以上です。

佐々木部会長 最初の関係人口、特に移住定住施策が施策1に入ってきていますので、ここの関係人口という言葉は少し丁寧を使う。使いやすい言葉ではありますが、確かに関係人口といいますと、今、能登なんかでも二拠点居住とか言われていますけど、外の人地域の人とどう関わるか、消費だけではなく居住で関わる。地域協力隊という形で中に入ってきている方です。そういう方が本当に美里に残りたいと思えるような町づくりを目指したいのだと思います。政府の方も、関係人口を増やして移住定住と言いましたがそうならなかったと言っている、このままだと確かにここの部分が絵に描いた餅になってしまいますので、関係人口を増やして移住定住という難しかった言葉ではなく、協力隊やなんらかに関わってくれた人が、その人が本当に美里はいいなと思っていくような、促進に繋げるというような内容に変えていくということも必要なのかなと思いました。関係人口をバット入れるのではなく、美里はいいなと思ってくれた人や関心を持ってくれた人に確実にいいと思ってもらえる施策であるとか、町づくりをするだとか、そうすれば結果にも響くようなものになるのではないかと聞いていて思いました。あとは、中間モニタリングが重要と言うことで、ある意味やっている自治体もあると思います。勿論、議会がそういう機能をやっていたり、住民の皆さんがそういう機能をやっていたりするわけですが、ただ、こういった委員会のようなものを美里町は本当に手作りのような施策にして、多くの自治体が外部に委託するところを手作りでやっているということが、美里の人にとっては当たり前のことでも県内の自治体でも数少ないと思います。そういう意味では、何らかの形でこのようなメンバーで中間モニタリングをいれていってもいいのではないかと思います。今回どちらかという、前回に加えてこれまでの内容を文言の修正ですとか、深堀の議論ができたのではないかと思います。もう少し何か言っておきたいということがありましたらご発言いただきたいと思いますが、いかがですか。

#### 【特になし】

それでは、このあと全体会がございまして、今のご意見を含めまして私の方から説明したいと思います。大変寂しく思いますがこれで3回目ということで、思った以上に充実した議論ができたと思います。進行もスムーズにいきまして改めて御礼申し上げたいと思いますし、モニタリングという話もありました、これからもこのメンバーで集まれる機会があればいいなと思っておりますので、その時は断ることのないようお願いしたいと思います。それでは、部会の議事の方は終了したいと思います。第3回に渡っての議論、ありがとうございました。そして事務局の皆様におかれましては、真摯に意見を反映していただきまして改めて感謝申し上げます。

高橋課長 佐々木部会長ありがとうございました。なお、先ほど出た意見の中で変更点につきましては、部会長一任ということでこの後協議させていただけたらと思いますがよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

そのようにさせていただきます。それでは次第4その他でございます。委員の皆様からご質問等ございませんでしょうか。

【特になし】

それでは事務局からご連絡です。先ほどお話しがありました通り、この後15時30分より全体会が中央コミュニティセンター大ホールにて開催されますので、ご移動をお願いしたいと思います。以上をもちまして、第3回美里町総合計画審議会総務行政部会を終了します。ありがとうございました。

審議終了

—午前・午後 3時09分 終了—

作成者 まちづくり推進課 高橋憲彦